

3 人生各期別の教育目標

目標設定委員会では、人生各期にわたる教育目標及び達成目標の達成を図るために、具体策の策定並びに、目標達成の場とそのかわりについて明らかにした。

人間が成長していく各段階には、その時に身につけなければならない能力とか、その時に果たさなければならない課題がある。このような考えに基づき目標達成の適期を設定しており、ここでは目標の達成時期ごとに表した。

教 育 目 標 人生各期にわたる達成目標を集約して設定した。

(1) 達成目標 教育目標の達成を図るための具体的な目標である。
タイプ 達成目標を調査結果との関連から、次の五つのタイプに整理した。
なお、平成8年度の見直しの中で、タイプが変化すると思われるものは従来のタイプを括弧で表示した。また、新たに付け加えた達成目標はNとしてあらわした。

Aタイプ…… 市民の意識が高く、実態も高いタイプで、さらに努力を継続していくことが望ましいと考えられるもの。

Bタイプ…… 市民の意識は高いが、実態は低いタイプで、市民の実態を高めたいと考えられるもの。

Cタイプ…… 市民の意識は低いが、実態は高いタイプで、市民の意識を高めないと実態も低くなる可能性があるもの。

DおよびEタイプ…… Dタイプは、市民の意識が低く、実態も低いタイプで、Eタイプは、市民の意識と実態について、特に特徴が認められなかったタイプであるが、共に将来を見通したとき、市民の意識と実態を高める必要のあるもの。

(2) 具 体 策 教育目標及び達成目標の達成を図るために、具体的な施策等を設定した。

(3) 目標達成の場とそのかわり（教育機能連関）

教育目標及び達成目標を達成するために、家庭、学校、地域、職場、市行政等の教育の場が、どのような役割を担うべきかを明らかにし、さらに、中核となる教育の場とそれを支える教育の場とのかかわりを明らかにした。